

## より大きな展望の提起

2006年4月、アメリカ、デラウェア州、ウィルミントンのワークショップでのティム・ジャキンズの話から

RCを始めてから、またはそれ以前から、ここにいる私たちは思い描いてきました。大きな変化を起こして人々が人間らしい生活を手にいれ、物事がうまくいくようになり、最悪なことを防ぐだけでなく、——社会は実際に変えられるということです。

社会が変動し、あちこちで物事がよりむずかしくなっているので、その考えに踏みとどまり、他の人々に示したりすることを困難に感じています。そうすることは前ほど安全だとは思えません。もし一歩踏み出して大きな声で発言すれば、もっと反発があるでしょう。RCでもそれはまた真実です。少なくともある程度の時間、大きな変化をもたらすことを決断してその考えを実現しようとしている私たちは、以前よりも多くの場合、ひっそりと個人的に行動しています。

ほとんどの人にとって、最近の状況の変化は自分の個人的な失敗のように感じられてならないでしょう。ですから、最初に失敗や落胆を感じた時に戻って取り組まなければなりません。私たちが周りの人から浴びた反発や批判、どこで自分が失敗したと考えたか、どこで混乱したり挫折したりしたかを見つめなければなりません。

これをうまくやるには、現実には起こっていることについて、傷が伝えてくるよりも、よいイメージをもつことが必要でしょう。事実、物事は十分によくなっています。RCや世の中の現状が、多くの場面において、物事は前進しています。現状の展開によって、変化は必然的に起こらざるをえないでしょう。その変化は、必ずしも注意深く、きちんと起こるのではなく、場合によっては破壊的なこともあります。しかし、必然的に物事は前進しています。

そして、いろんな場面において、みんな、落胆を感じているかもしれませんが、事実としては、落胆せずにやっていた時よりも今の方がずっと、状況を変えやすくなっているのです。自分がすぐつらい気持ち乗り越えて立ち上がる——自分が動き始めると世界がついて来るのにと、以前は感じられてよかったのに、とあなたは思っていますね。でも現実には、あなたは、今はもっと能力があり、より多くを理解しており、よりよい人間関係を築いていて、そのころよりずっとよくコミュニケーションをはかっているのです。

生きていると感じさせてくれる、傷からの小さな抜け道を失ったことは、残念でしょう。でもあなたは、戦い、ディスチャージし、その希望を取り戻すことができます。あなたは、何か傷に対するコントラディクト——誰か、何らかの条件、何か——を持っていました。それは、ひどい再刺激からひょいとあなたを連れ出し、再びこんな風になりたいと期待できることを十分に考えさせてくれました。もしそのように傷へのコントラディクトとなってくれた人に出会えば、物事は動き、自分がその動き

を作る一員となり、自分にできることがあると感じられたでしょう。あなたは、自分がやりたい役割や、担える役割についてはっきり考えたことがなかったかもしれません。でも、自分にできることがあるのは分かっていました。そして、そのことが重要なのです。

あなたは今まで思い描いたことを今だって、すべてできます。今の方が、以前よりもずっと、その準備ができています。よりよい理解と人間関係を持っています。自分ができると想像したことを思い出してください。そして、あなたの人間関係がどうだったか思い出してください。今あなたは関係を持続するためにはどうしたらいいか知っています。今関係を持っているだけでなく、お互いにコミットメントした場で取り組んでおり、必要な道具を持っています。そして、存分にその道具を使う練習をしたので、どうやって仕事をしたらいいか知っています。希望があるだけではありません。方向性だけではありません。コントラディクションだけでもありません。あなたは本当に能力を伸ばしたのです。

さあ、私たちは再びスタートします。私たちが何者であるか、何を知っているかを新鮮な目で見なおすのです。絶望と落胆に挑戦するのです——傷を再演するのでも、傷を超越するのでもありません。再刺激がなくなるまで、そこに戻ってディスチャージするのです。

このところ、少数のコウ・カウンセラーたちが時々集まって、革命的な考えを討論してきました。これは、RCコミュニティ全体の焦点になっていることではありません。私たちは、もし物事の現実と未来の可能な展開という革命的な展望を前面に打ち出したら、誰でもがRCに手を伸ばせるようにはならないだろうとずっと思っています。大半のコミュニティでは、人々にRCを伝える際には、穏やかに注意深いやり方で行われています。より大きな展望を伝えるのは、ずっと後になってからです。

これは、私は思うのですが、人々がRCを離れる理由の一つでしょう。彼らは自分の個人的な傷よりもっと大きな展望、つまり自分の再刺激に対抗できるほど十分に希望に満ち、十分に実質的で、明らかにみんなのためになることが十分伝わる展望を見出すことができなくて離れていくのです。私たちはこの展望をどうやったらうまく伝えられるか、まだよく分かりません。ひとつには、私たち Rcer がすべてを変える存在であることをおおやけにするのを、まだ怖がっているからです。私たちはいまだに角を曲がるたびに警戒し、攻撃と全滅におびえているのです。

人々に有効な、より大きな展望を差し出すことが、いかにRCコミュニティを強くするかということに、私たちは注目しはじめています。しかし、熱心さでぎらぎらして、「これを理解するべきだ」というこり固まった主張をすることはありません。十分な資源とディスチャージのプロセスを使う機会があれば、人はより大きな展望を理解するでしょう。むしろ、それを私たちに気付かせないようにしている、あらゆる傷に取り組んでいきましょう。私たちが提案できる最も革命的な事柄のひとつはディスチャージです。ディスチャージが許されていれば、抑圧的な社会は存続できません。そして、

人がディスチャージできなければ、一時的な成功以上の革命的な変化は起こりません。長期的に、社会と人々がディスチャージを使うことの両方が変わる以外の選択はありません。

Putting Forth A Larger Perspective

プレゼントタイム 2007 年 10 月号 21 - 22 ページより

Tim Jackins

翻訳：野町純子、中尾悦子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳 2009 年。原文 2007 年）。  
この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。